

学校事故防止の徹底と不祥事の絶無 ～学校教育を支える基盤づくり～

県南教育事務所グランドデザイン

学校教育課通信

令和7年 8月20日（水） 第210号

編集・発行：県南教育事務所 平山 明 裕

学校事故防止の徹底と不祥事の絶無は、学校教育を支える基盤づくりという点で、さらには「信頼される学校づくり」という点で極めて重要です。

県南教育事務所では、そのグランドデザインにありますように「学校教育を支える基盤づくり」を重点の一つとして掲げ、「学校事故防止の徹底と不祥事の絶無」に取り組んでいます。

令和7年度 学校事故防止対策研究協議会

令和7年6月5日（木）矢吹町文化センターにおいて、主に各校の教頭先生方を対象として、令和7年度学校事故防止対策研究協議会を開催しました。協議会では、「学校事故及び教職員の事故防止（講話①）」「児童生徒の事故防止（講話②）」「教育事務所長講話（講話③）」を行い、「教職員の不祥事防止（横領や詐取及び公金処理不適正等）」をテーマとした研究協議を行いました。

研究協議では、昨年度の懲戒処分27件のうち9件発生した「横領や詐取及び公金処理不適正等」の事案をもとに、「職場の力を高め、不祥事を根絶する観点」での異校種によるグループ協議を行いました。



【参加者の感想】

＜横領や詐取及び公金処理不適正等に関する感想＞（以下は、同様の感想が複数ありました。）

- ・ 異校種間で情報交換をすることで、自校の公金の扱いを客観視することができた。
- ・ マニュアルの周知と見直しを行い、校内研修として共有したい。
- ・ 担当に任せにせず、定期的な複数でのチェックと声かけを行っていききたい。
- ・ 学校全体で役割分担を明確にし、不透明な処理は許さない風土を醸成していききたい。
- ・ 不正な使用を防ぐために、公印及び私印の管理を徹底したい。
- ・ 教職員に公金管理への指導を日常的に行い、危機管理に対する意識の向上を図りたい。

＜全般的な感想＞

- ・ 普段から職員との対話を大切にし、表情や生活の変化に気付くことができる管理職でありたい。（対話の重要性に触れた感想が多数ありました。）
- ・ 学校事故防止に対する管理職の役割や責務について具体的に考え、学ぶことができた。特に職場の力を高めることが大切であることをあらためて実感した。
- ・ 学校事故や不祥事の未然防止に関して、通知等の事例から学ぶことは大切である。
- ・ 自己の客観視と同僚性を高め不祥事を起こさない風通しの良い職場づくりが大切である。
- ・ 管理職の教職員、児童生徒、地域との対話が不祥事の未然防止の第一歩であり、重要な手立てだと感じた。
- ・ 職場の力を高めるためには、教職員が不祥事を自分事として捉えるために、教職員が自己の言動を振り返る時間を設けることも一つの手段だと感じた。
- ・ 講話より、ヒヤリ・ハットを職場で共有することも有効な手立てであり、今後実践していきたい。

令和7年度 域内服務倫理対策会議

令和7年8月1日（金）西郷村文化センターにおいて、各校の校長先生方を対象として、域内服務倫理対策会議を開催しました。

対策会議では、昨年度の懲戒処分の現状と不祥事根絶プロジェクトについて研修を行いました。その後、グループ協議として、それぞれの学校の取組の成果と課題、令和7年度における重点「わいせつ、体罰、公金処理関係」に対する具体策を話し合いました。

その後、「不祥事を起こさない、起こさせない職場づくり。学校教育現場からの不祥事根絶」として、主任管理主事が管理職としての思い込みの危険性や職場内コミュニケーションの大切さについて講話を行いました。



【主任管理主事の講話のスライドの一部】

職場内コミュニケーション

○不祥事につながるシグナルに気づけるように

→「不正など起こるはずはない」という思い込みを捨て、想像力を働かせる

○担当する業務について関心を持たれず、監視の目が行き届かない
→担当者が一人の業務について、適正な処理の仕方や進捗状況を確認するなど、話題にしてみる

○職員は管理職の仕事に対する姿勢を見ている

→些細な不備や曖昧な説明を許容していると、「この管理職はいい加減な仕事をしていても大丈夫」と思い、不正行為、不祥事に近づいていってしまう

【参加者の感想】

＜参考となった他校の取組例等＞

- ・ 若い教員が多いため、公金等の処理、会計処理の進め方、決算書の作成について校内で共有する取組は参考になった。
- ・ 不祥事根絶に係る通知等について、他校の事例の報告に留まらず、自校に当てはめて職員に考えさせる機会を持ちたい。
- ・ 職員会議の際に市町村職員も含めて服務倫理委員会を行うこと、今月のキャッチフレーズを決めること等が参考になった。

＜2学期以降、自校の不祥事防止のために取り組みたいこと＞

- ・ 自分事として捉えられるような話題で小グループで話し合い、身近で起こりそうな事例をもとに一人一人の考えを共有したい。
- ・ 不祥事根絶に向けて、教職員同士の対話の機会をあらためて設けていきたい。

＜全般的な感想＞

- ・ 不祥事を根絶する「管理職の姿勢」を示していくことが重要であり、思い込みをなくすることはもちろん、仕事に関しては自分にも他人にも厳しく職務にあたりたい。
- ・ 「まさか」が不祥事のため、職員を信頼しつつも、万が一の視点で学校経営にあたっていくことの重要性を再確認できた。

「信頼を失ったらどうなってしまうのか」「自分ならどうするか・自分のやり方は正しいのか・自分はどのように見られているのか」と、危機感と当事者意識をもって不祥事を捉え、「職場の力」を高めていくことが大切です。その「職場の力」の高まりが、「風通しの良い職場」につながり、相乗的に不祥事根絶に向かっていくものと考えます。（教育広報「県南」（令和7年7月発行）より）